

**資料I 個別の指導計画**

秘

令和4

年度 個別の指導計画

学年

組 名前

( 男 ・ 女 )


記入者(担任

記入日 令和

年

月

日

1:担任として気になる点・困っていること		2:子どもの長所				前年度の様子
3:指導のめあて(重点は★)		前期		後期		保護者の願い・子どもの声
		支援	評価	支援	評価	
学習面						
生活面						
社会性						特記事項 (共通理解しておくこと)

**資料2 個別の指導計画**

年 秘 令和 年度 個別の指導計画  
 年 組 名前 ( 男 ・ 女 ) 記入者 記入日 令和 年 月 日

○児童の実態(児童が困っている点、気になっている点など)	○考えられる要因(要因シートを参考に)		
	感覚・機能	背景	
1. ⇒			
2. ⇒			
3. ⇒			

○児童の長所・好きな物・特技など



○児童の実態から考えた今年度目指す姿

1.
2.
3.

○今年度目指す姿にむけての手立てと評価

	前期			後期		
	手立て	評価	手立てに対する評価	手立て	評価	手立てに対する評価
1	・ _____		・ _____	・ _____		・ _____
2	・ _____		・ _____	・ _____		・ _____
3	・ _____		・ _____	・ _____		・ _____

○1年を通じた児童の成長・変容など

### 資料3 個別の指導計画記入例

秘 令和5 年度

個別の指導計画

年 組 名前 吉島 太郎 (男・女) 記入者 中島 明夫 記入日 令和 年 月 日

○児童の実態 (児童が困っている点、気になっている点など)	○考えられる要因 (要因シートを参考に)		
	感覚・機能	心理	背景
1. 授業中に席を立ち歩く。 ⇒	視覚		視力が弱い。
2. 周りの児童からの注意が我慢できず、暴力を振るう。 ⇒	実行機能	心理	感情コントロールが苦手。自尊心が低い。
3. ⇒			

○児童の長所・好きな物・特技など  
算数は得意で、特に計算が素早くできる。わからないときは周りに助けを求められる。宿題は、時間がかかっても最後までやり遂げることができる。



要因シートを参考に、現状で考えられる要因を選んでください。

○児童の実態から考えた今年度目指す姿

1. 席を立ち歩かずに授業を受ける。
2. 注意を受けた時に、時間はかかっても落ち着いて受け入れられるようにする。
3.

	○今年度目指す姿にむけての手立てと評価		
	前期	後期	
	手立て	手立てに対する評価	手立て
1	視力的な問題が大きいので、 <b>席は常に前から2番目まで</b> にする。	手立てが <b>具体的</b> になっているかに注意してください。数は一つでも構いません。具体化するためには、 <b>動作化</b> したり、 <b>限定</b> したりすることも考えられます。	
2	手を出しそつになつたら、 <b>深呼吸して先生に伝えるよう</b> 指導する。 自己肯定感を高めるために、 <b>手を出すことを我慢出来たら</b> みとめ、ほめる。		
3			

○1年を通じた児童の成長・変容など

記入に困った際は、特別支援教育コーディネーターまでお声掛けください。

## 資料4 要因シート

子どもの発達に深くかかわる11の感覚・機能		関係する感覚・機能	生じる苦手さの例
感覚	A 視覚	視力、視機能(眼を動かす)、 視知覚機能(広い範囲の情報を把握する視野など)	・動くものを正確にみること ・板書を書き写すこと ・本を読むこと
	B 聴覚	(音を聞く、聞こえてくる音の方向や同時に聞こえる音の聞き分け)	・話し手の言葉を正しく聞き取ること ・話し手の言葉を正しく理解すること
	C 前庭覚	(体のバランスをとる、目の動き・情緒との関連)	・姿勢が崩れやすい ・頭を動かしたとき視点が定まらない ・物を見比べる
	D 味覚	旨味、甘味、塩味、苦味、酸味	・違った味に感じ取るため食べることに苦手さがでる
	E 嗅覚	(感情・記憶と関連)	・特定のにおいがする場所を拒否 ・食べることにする苦手さ
	F 皮膚感覚	触覚、圧覚、痛覚、温度覚、痒覚 (情緒との関連)	・体や手足をうまく動かすこと ・刺激による情緒的な不安定さ
	G 深部感覚	関節覚【位置覚・運動覚】、振動覚、深部痛覚	・体を自由に動かすこと ・物を乱暴に扱っているように誤解される
	H 感覚処理パターン (A～Fのすべての感覚ごとに関わる)	低登録(通常刺激に反応しにくい)、 感覚探求、 感覚過敏、 感覚回避	低登録: 部屋に人が入ってきて気づかない、声をかけられても気づかない 感覚探求: 好みの感覚を求める行動をとる 感覚過敏: 少しの刺激が不安・恐怖につながる 感覚回避: 苦手な感覚が生じる場所から逃げたりその場所に行かない状態になったりする
機能	I 高次脳機能	運動企画(初めて経験する動きに対する) 空間認知、 言語機能(相手の気持ちを理解することに関わる)	運動企画: 繰り返し行う単純な動きはできるが、初めて行うダンスなどはできない。 空間認知: 物を見つけ出すこと、整理整頓・画数の多い漢字を書くこと 言語機能: 聞き取り学習、対人関係
	J 実行機能		
	J1 課題を効率的に行う力	計画立案、優先順位、時間管理・作業記憶 → 計画を立て、計画の優先順位を考えて時間管理をする。課題に取り組む間の作業記憶をする力	・しなくてはならないことを後回しにする ・課題を途中で中断してほかの課題に移る → 「やり遂げる」ことの苦手さ
	J2 気持ちや課題をコントロールする力	反応抑制、感情抑制、自己監視、注意機能、柔軟性 → 苦手な課題に取り組むときに反応や感情を抑え、自己を見つめる。注意の持続・切り替え。手順が違ってても対応できる。	
	K 運動機能 (A～Jの感覚・機能すべてと関わり)	筋力、持久力、バランス(静的・動的)、低緊張、 粗大運動、巧緻運動、両手動作、協調運動、口腔機能	・生活動作 ・運動課題
心理	L 心理	心の理論(人の気持ちを読み取る力)、自尊心、逃避、不安、固執	・相手の立場を想像できない→ 集団活動に困難さ ・失敗体験を繰り返すことによる自尊心の低下→ 逃避・不安 ・こだわりが強いことが活動に影響

(「教師が活用できる 親も知っておきたい 発達が気になる子の学校生活における合理的配慮」 鴨下賢一:編著 中央法規出版より)